

# 事業名：「日本体操協会公認「スマホ体操」普及による新しい健康社会構築事業」

団体名：公益財団法人日本体操協会

## 事業実施の背景・課題、目標

日本体操協会の設立目的である、“国民の心身の健全な発達に寄与する”を日々達成する為、①『競技力を高め、観客に感動を与える。』と②『体操を通じて幸福な社会の実現を目指す。』を2つのミッションとして実践してきた。

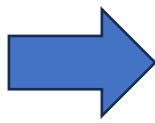
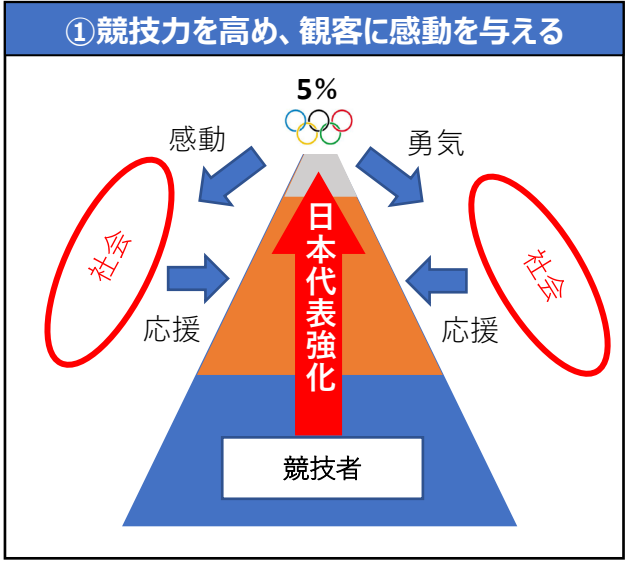
特に①の競技力の向上に関しては、体操競技・新体操・トランポリンの各競技の強化に注力し、世界大会で結果を残す事で社会に感動を与え、体操協会の価値を高めてきた。

しかし、コロナ禍での東京オリンピックを経て、スポーツに対する社会的価値が大きく変化し、世界大会で結果を残す事が必ずしも社会的価値として認められる訳ではなくなった。その為、今一度2つのミッションに立ち返り、特に②『体操を通じた幸福な社会の実現』を目指し、これまで培ってきた体を操るノウハウを、広く社会に還元する事で、体操協会の社会的価値の再構築を図る事を目的に、本事業を計画した。

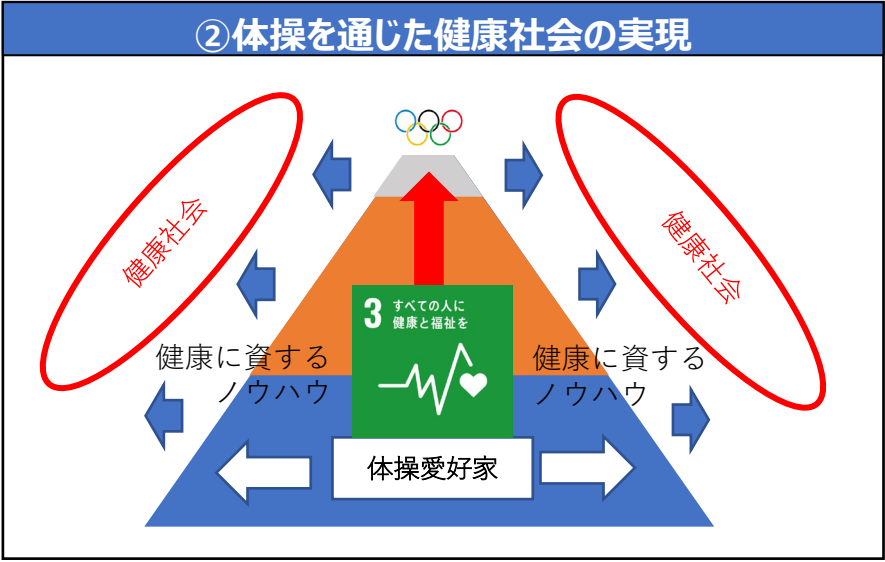
「体操」は体を操ると書いて体操であり、「体操」が普及、発展することは、運動神経の発達だけでなく、脳神経をも刺激し、幼年期の健全な心身発達から、老年期の身体、脳健康の維持まで日本国民の幸福の一助となります。また同じくそのことが、基礎として他スポーツの発展にもつながることから、スポーツ界の発展を担う競技となります。

あらゆる身体活動の場面で、基礎となる準備体操のプログラムを確立、誰でもアクセスできるスマホアプリを通じて簡単にできる日本体操協会公認準備体操が、ラジオ体操と並ぶ「スマホ体操（仮）」として広く普及する事で、持続可能な健康社会を構築する。

### 過去の体操協会



### 目指す姿



## 計画№1 強化本部、一般体操委員会によるプロジェクトチーム構築

実施期間：令和5年～令和6年

取組内容：体操協会の一般体操委員会中心に強化本部の協力のもと、本事業を進める為のプロジェクトチーム発足、ミーティングによるプランニング、他競技団体やNFに連携の為の連絡開始。  
基本コンセプト構築。

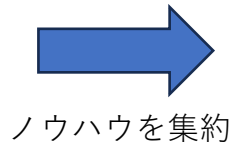
プロジェクトチーム

体操競技強化本部

新体操強化本部

トランポリン強化本部

一般体操委員会



ノウハウを集約

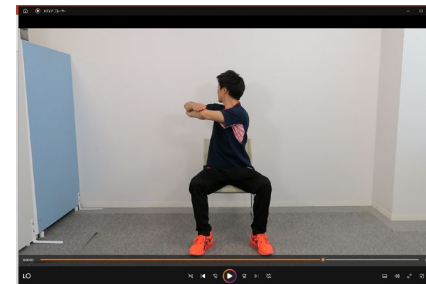
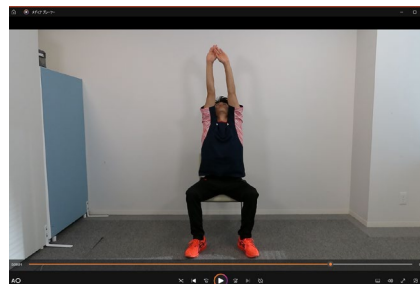
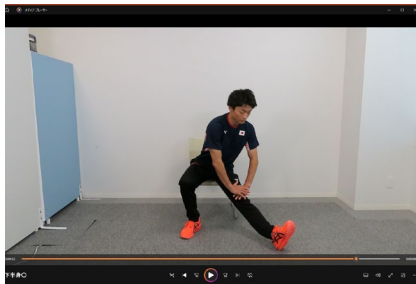
- ①企画・開発スケジュール
- ②体操協会内での運用方法
- ③普及・継続プラン
- ④有償化に向けた企画等

## 計画№2 準備体操プログラムの企画・開発

実施期間：令和5年～令和6年

取組内容：体操協会の健康に関するノウハウを集約した体操プログラムを、有識者の知見を得ながら基本コンセプトを元にデザイン。体操プログラムの編成と制作開始。  
基本プログラムを、試験運用しながらブラッシュアップ。

現在制作中の基本プログラム



## 計画№3 スマホ体操アプリケーション開発・アップグレード

実施期間：令和5年～令和6年

取組内容：IT企業と協働の上アプリケーションの企画・開発・訴求・アップグレード。

## 令和5年度の取組内容

### 計画№1 強化本部、一般体操委員会によるプロジェクトチーム構築

体操協会の一般体操委員会中心に強化本部の協力のもと、本事業を進める為のプロジェクトチーム発足、ミーティングによるプランニング、他競技団体やNFに連携の為の連絡開始。基本コンセプト構築。

### 計画№2 準備体操プログラムの企画・開発

体操関係の知見を集約した体操プログラムを、有識者の知見を得ながら基本機能案を元にデザイン。体操プログラムの編成と制作開始。基本機能のプログラムを、試験運用しながらブラッシュアップ。

### 計画№3 スマホ体操アプリケーション開発・アップグレード

IT企業と協働の上アプリケーションの企画・開発・訴求・アップグレード。

## 令和5年度の取組の進捗・成果・課題

### 【進捗】

体操競技・新体操・トランポリン等の、競技スポーツの強化普及において培ったノウハウを、どの様に新しいプログラムに反映するかを議論する必要があった。その為に、当該プログラム作成に関する各競技の強化本部・医科学アンチドーピング委員会・一般体操委員会と相談の上、コンセンサスをとる為の意見調整が必要となった。その後、プログラムの具体的な内容を精査する為に、関係者と議論を重ねた。2024年3月末までに、動画を含めたプログラム完成予定。

アプリケーションの開発に関しては、過去に取引の有る富士通社に相談の上、プログラム機能と開発にかかる作業の洗い出しにおいて、打ち合わせを実施した。

### 【成果】

これまで体操協会が実施したことのない新しい取り組みであったため、調整に多くの時間を要した。またアプリケーション開発はいったん延期する事となったが、最も重要な体操プログラムの内容を煮詰め、より多様なニーズに対応できるプログラムとして開発がスタートしている。来年度までにはプログラムをローンチし、その後もプログラムの選択肢を増やしつつ、アプリケーション開発を含めた提供チャンネルの増加を模索していく。

### 【課題】

体操競技・新体操・トランポリンの各競技のノウハウを、一般向けに還元する活動はこれまで協会として実施した前例が無く、一般向けのプログラムは一般体操委員会が展開してきた。

各競技の活動がそれぞれ独立している為、ノウハウの還元をどの様に進めるか、連携をとる為のコンセンサス調整が必要となり、プログラム開発に大変時間がかかった。

ラジオ体操等と同様、実施者の身体状況や生活環境等に実施を制限されるプログラムとしての開発では、様々なニーズに対応する事が難しくなることが想定される事、アプリケーションの機能開発をするうえで体操プログラムの機能の確定が優先的に必要であったことから、アプリケーション開発事業者の選定等、事業3の実施時間を、体操プログラムの開発に費やすこととした。

# 本事業の成果目標・KPIの達成状況

**成果目標・KPI 1 「スマホ体操」アプリ利用者数増加による、運動習慣の拡大。**

週1回以上のスポーツ実施率75%以上

達成状況：KPIは未達成。現在体操プログラムの開発段階の為、一般への展開は開発後。

**成果目標・KPI 2 地方での体操・スポーツイベント開催によるスポーツツーリズム活性化と地方創生。**

地方自治体・地方体操協会・旅行代理店や航空会社などのツーリズム関連企業と連携した、  
体操・スポーツイベント開催年3回以上。

達成状況：KPIは未達成。現在体操プログラムの開発段階の為、一般への展開は開発後。

## 令和6年度の実施予定

### 【令和6年度の取組内容】

新規体操のプログラムオプション増加、プログラム内容のブラッシュアップ。

プログラムの動画・資料の作成とSNS活用による一般への展開。

アプリケーション開発とその後の展開にかかるプランニング。

### 【令和6年度の改善策】

体操プログラムの開発に至るまで、内部調整に時間を要した事から、スケジュールが大幅に遅れた。

遅れたスケジュールを取り戻す為、今後は体操プログラム開発の為の作業頻度を上げて取り組む。

※現在は動画撮影や編集を含む制作物に対する作業は月1回程度。

また、幅広い社会的ニーズに答える事ができる体操プログラムでなければ、アプリケーションを開発したとしても、その後の普及効果に制限がかかる事が予測できるため、多様性をより考慮したプログラムの開発を優先させる。

同時にアプリケーションを開発した際に、体操プログラムの開発において変更された動作オプションを、どの様にシステムに反映させ、運用・訴求できるかのプランを、既に相談しているIT企業やコンサルティング会社と連携の上、アプリケーション仕様書に落とし込む。